教育資料室だより
No.15　令和4(2022).11.15
発行　桐生市立教育資料室
桐生市小曽根町1－9　電話･FAX (43)3171

あの頃　この街
鉄道１５０周年

今年は学制発布１５０周年であるとともに、鉄道開通１５０周年にも当たります。

「汽笛一声新橋を はや我が汽車は離れたり 愛宕の山に入り残る 月を旅路の友として」(鉄道唱歌)･････。新橋･横浜間に蒸気機関車が走ったのは、明治５(1872)年10月14日。午前10時に新橋駅を出発した特別列車には、明治天皇を初めとして、明治の元勲、西郷隆盛、大隈重信、板垣退助、勝海舟、山形有朋、渋沢栄一等、錚錚たる顔ぶれの人たちが乗っていました。

桐生駅は、この16年後の明治21(1888)年11月25日、両毛鉄道の駅として開業しました。地方の鉄道としては早い時期です。両毛線と呼称されるようになったのは明治42(1909)年です。両毛鉄道はその後、明治30(1897)年に日本鉄道に譲渡され、明治39(1906)年日本鉄道の国有化に伴い官営鉄道となります。

足尾鉄道[足尾線]は明治44(1911)年に、足尾銅山から産出される鉱石運搬を主たる目的として誕生し、大正７(1918)年に国有化されます。太平洋戦争後の昭和24(1949)年、日本国有鉄道[国鉄]の所有となり、国鉄分割民営化に伴い、昭和62(1987)年、両毛線とともに東日本旅客鉄道[JR東日本]所属となります。銅山閉山とともに、貨物輸送や利用者が減少し続け存続が危ぶまれていましたが、平成元(1989)年、第三セクター方式のわたらせ渓谷鐵道[通称:わ鐵]として運営されることとなり、現在に至ります。

東武鉄道桐生線の新桐生駅は大正2(1913)年、上毛電気鉄道[上電]の西桐生駅は昭和3(1928)年に開業しています。東京から離れた地方都市に四本もの鉄道が敷かれ、『桐生』と名のつく駅が三つもあるのは大変珍しいことです。織物の一大産地という歴史があったからこその誇りある特色、ブランドの一つかと思います。今回は昔の桐生駅や西桐生駅、相老駅、両毛線高架事業の様子などを写真で紹介します。

ただし、残念ながら当室所蔵資料の中に以前の新桐生駅の写真は見つかりませんでした。現在の駅舎に建て替えられたのは昭和63(1988)年末です。浅草･北千住からの帰り、停車している『りょうもう号』の前の線路を横断して改札へと向かった記憶がある方は、現在、お幾つになるのでしょうか。

☆ 参照

「ふるさと桐生のあゆみ」(桐生市教育委員会刊)
「桐生市史」(市制三十周年記念桐生市史刊行委員会)
桐生市ＨＰ

昭和三(一九二八)年に開業した **二代目桐生駅**
左写真の撮影年代は不明

昭和四十二年に跨線橋ができて北口から南側へ渡れるようになります

巴町踏切　遮断機が下りています　手前が桐生駅

遮断機は人がハンドルで上下させていました　奥が駅

本町踏切　右上写真は六丁目側から撮影
左上は「家具の小森谷」さんの前辺りから

← 右上と同じ場所から見た高架 2003 年撮影

昭和40年代、家庭に自動車が普及するにつれ、桐生市内の主要な道路は両毛線踏切での慢性的な渋滞に悩まされることになります。この抜本的な解消に向け、昭和50年代に高架事業が着手され、昭和60(1985)年に竣工します。列車は高架上、自動車は拡幅された道路へと立体交差になりました。また桐生駅北口から南口へ抜ける通路もフラットになり、人の往来も楽になりました。

高架事業開始の頃でしょうか？　仮駅舎と跨線橋が見えます。

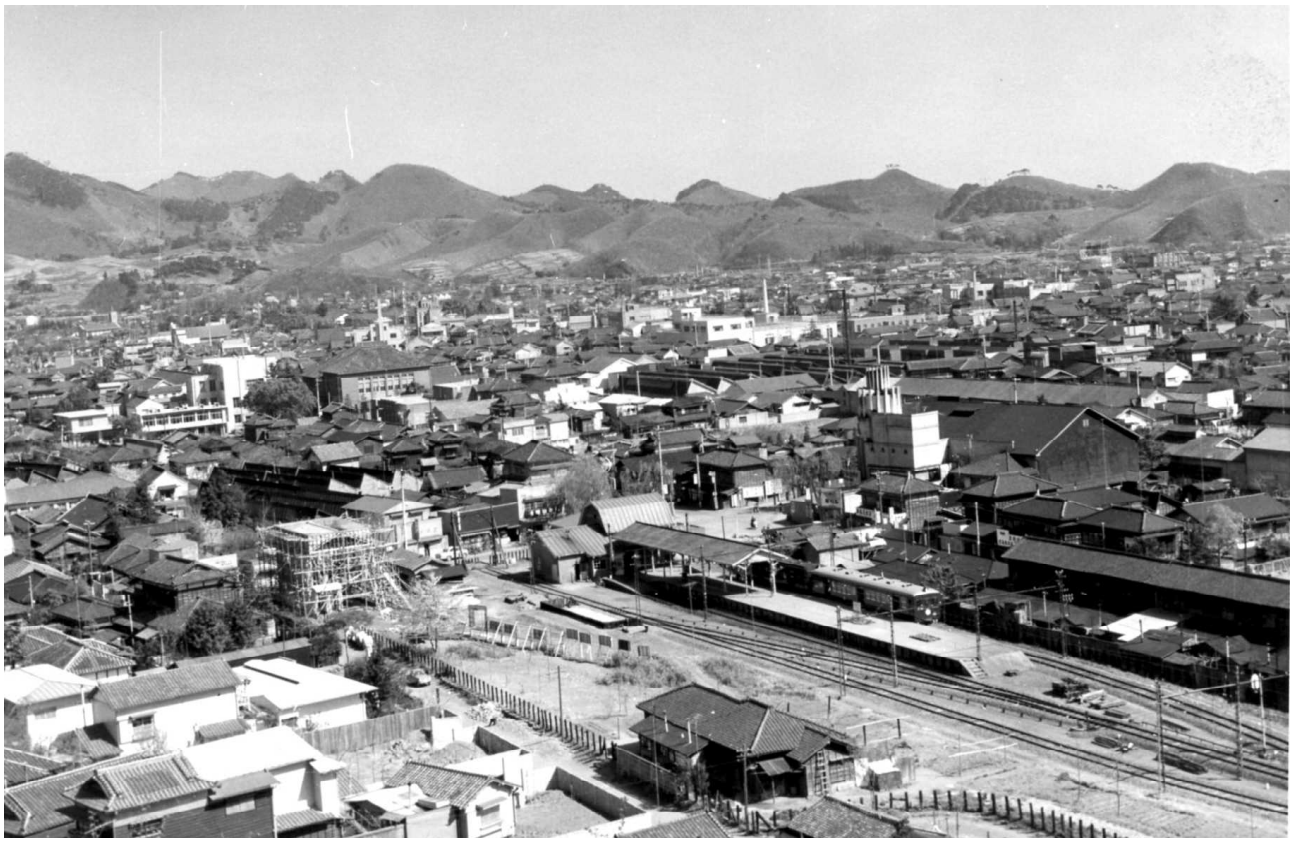
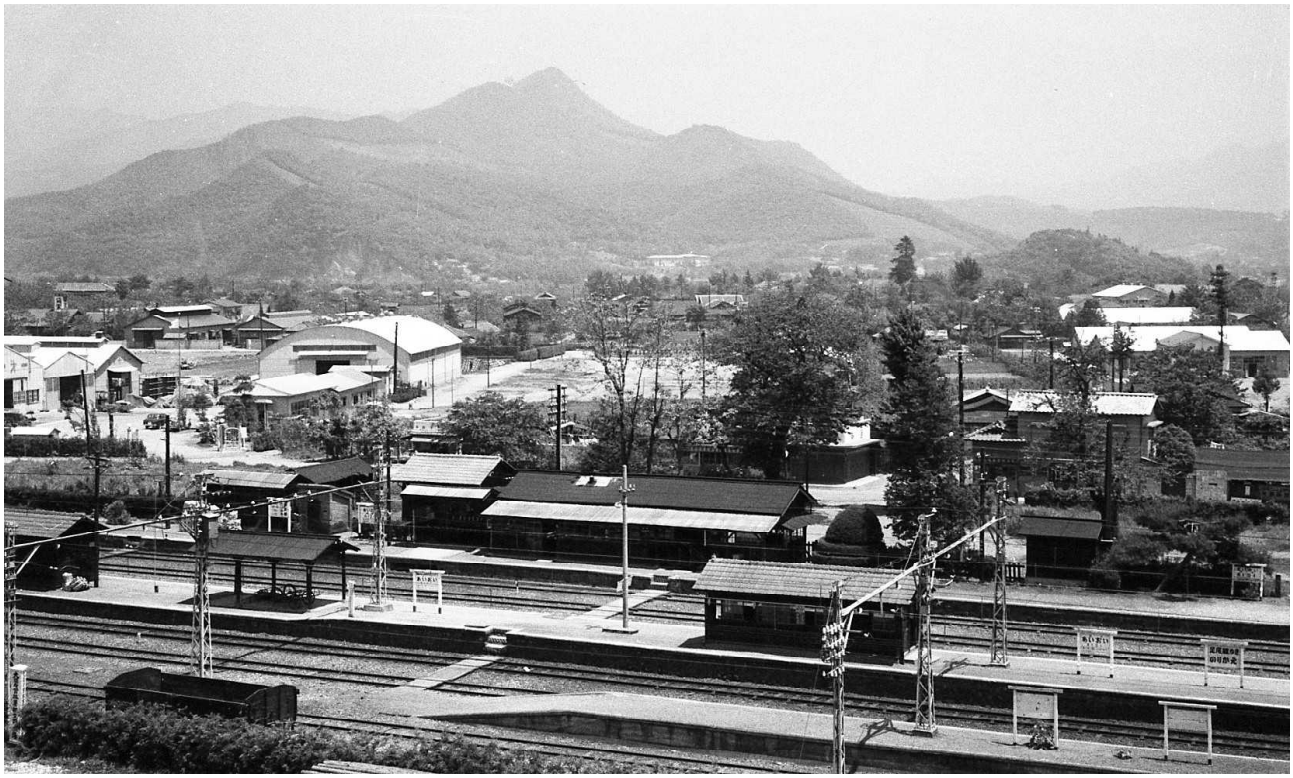
← ホーム工事中

仮駅舎と跨線橋 ↑

線路が敷かれ ホームの屋根ができてきました →

テープカット →

西桐生駅



相老駅